

児童館における子育て支援に関する研究 —父親への影響が母親にもたらす効果に着目して—

専攻 学校教育学
コース 幼年教育コース
学籍番号 100191
氏名 長田 典子

問題と目的

都市化、核家族化、少子化が生じ、子どもを取り巻く家庭や地域社会の子育て機能が低下してきており、子どもや親子関係に関する問題が深刻になっている。子育てをする親の問題として、子育て不安が取り上げられるようになった。

そこで母親の子育て不安を軽減し少子化に歯止めをかける対策として 1994 年にエンゼルプランが制定され、2000 年の新エンゼルプランで初めて、在宅児を含めた子育て支援の推進が盛り込まれた。2007 年には次世代育成支援対策推進法が制定され、子育て、子育て、親育て、家庭援助にも焦点が当てられ、生みやすい地域、育てやすい環境をつくることにひろがりをもつようになった。

このようにして進められてきた子育て支援によって、母親の子育ての不安軽減に影響しているという研究結果が示されている。そして子育て不安に関する研究では、家庭生活のあり方、特に父親の関わりが重要であることが明らかになってきた。柏木・若松(1994)が父親の子育てや家事の参加度の高さは、母親の子育ての負担感や自信のなさなどの軽減につながることを明らかにし、さらに、尾形・宮下(2003)は父親の「家事の援助」と「家族とのコミュニケーション」の関わりは母親の認知する夫婦関係のありように影響を与え、それが母親の養育行動に影響を与えることを明らかにした。このように父親の子育てへの関わりやサポート、そして夫婦のコミュニケーションや父親の積極的な関心が、母親の子育て不安の軽減につながり、母親の養育行動に影響を及ぼしていることが明らかになってきたのである。

今日、子育て支援は、さまざまな場や機関において行われている。本研究では児童館の子育て支援に焦点を当て研究をする。母親と子どもで参加することの多い児童館の子育て支援活動が、父親が子どもや子育てに関心を持つようになり、主に子育てをしている状況にある母親のサポートができようになることを考慮する必要があると思われる。しかし児童館の子育て支援活動がその場だけの活動になっておらず家庭につながっているか、父親に影響しているか、そのことが母親の支援につながっているかを目的とした研究は今までになされてこなかった。

そこで本研究では、児童館での就園前の親子への子育て支援活動に参加して母親が獲得する効果と、家庭や父親への影響を明らかにする。そして家庭や父親への影響と母親が獲得する効果との関連があるのかを検証することを目的とする。

研究方法

1. 調査対象

K市にあるT児童館における平成23年度の幼稚園や保育所に就園していない子どもと親を対象とした児童館の子育て支援活動の参加者の内、調査当日に参加した76名を分析対象とした。

2. 調査方法

平成24年3月に開催した平成23年度修了式当日。実施する時には、館長から趣旨を説明した後、質問紙を配布し、その場で記入してもらい回収した。

3. 調査内容

児童館の子育て支援の活動の場に参加して母親が獲得した効果を17項目挙げ、感じたことをいくつでも回答してもらった。17項目は、ポジテ

イブに捉えた効果 13 項目とネガティブに捉えた効果 4 項目からなる。母親が獲得したポジティブな効果の項目は、小川ら(2010)の「地域子育て支援事業の効果に関する研究から引用した 6 項目に、筆者が加えた 11 項目である。

次に児童館の子育て支援活動における遊びの家庭へのつながり、父親への影響、夫婦の会話への影響、父親の変化を問う項目を 9 項目挙げた。

以上の内容の質問紙調査を無記名で実施した。

結果と考察

1. 母親が獲得した効果

「他の子どもと遊ばせることができた」が 1 番多く 60 人 (78.9%) で、次いで「他の参加者と話せた」が 57 人 (75.0%)、「いろいろな遊びを体験させることができた」「子育て中の親子と友人になれた」「自分自身がリフレッシュできた」を選んでいるのが 54 人 (71.1%) となっている。参加することによって、子どもにとっての効果とともに、母親自身の効果も獲得していた。

2. 家庭や父親への影響

児童館の活動に参加した親子の 3 分の 2 の家庭において、児童館でおこなった遊びが家庭での遊びに、また子どもと母親が児童館の活動に参加することが父親と子どもや夫婦の会話に、子どものことについてや子ども以外のことについての夫婦の会話の増加に、さらに父親の子どもへの関心につながっていることが明らかになった。

児童館の活動に参加することが子どもや母親が父親に話をするきっかけとなり、夫婦の会話や父親の子どもへの関心に影響していると考えられる。

3. 家庭や父親への影響と母親の獲得する効果との関係

「児童館などでおこなった遊びを家でもしますか」という項目で、「よく遊ぶ」を選んだ母親が、「子育てが楽しい」を選んだ割合が高かった。参加して遊びを覚えたことによって、どう接したら子どもが喜ぶか、どのような遊びがあるのかを知ることが、子育てが楽しくなる要因であると考えられる。

「お母さんは行ったことを父親に話しますか」「父親は児童館に行っているか知っていますか」「子どものことを父親と話す機会が増えましたか」「夫婦の会話が増えましたか」「父親の子どものことについて関心を示すことが増えましたか」という質問項目で、「よく話す」「とても増えた」を選んだ母親が、「子どもの成長が楽しみになった」という項目を選んだ割合は高かった。「子どもの成長が楽しみになった」ということは、未来への見通しが立てられるようになったということであり、ポジティブな感情である。父親とコミュニケーションがとれること・父親が関心を示すことが、子どもの成長が楽しみになるという母親の効果の獲得に影響したことを表わしている。

本研究の結果とは反対の方向から、児童館の活動に参加し効果を得たことによって子育ての不安が軽減され、父親とコミュニケーションがよくとれるようになったことによって、父親が子どものことに関心を持つようになったとも考えられる。

4. 今後の児童館の子育て支援活動に向けて

3 分の 1 の父親は関心を示すよう影響していなかった。参加者の中には、「父親が、子どもの児童館での様子を見たいと言って来ました。」と言って、仕事の代休日に子どもや母親と一緒に親子の活動に参加したり、土曜日に父親が子どもを連れて来館することもある。まさに母親の会話から父親が子どもに関心を示すようになったことであろう。今後の活動に向けて、来館した父親に母親や子どもから児童館での話を聞いてどう感じたのか、母親には父親とコミュニケーションがとれ父親が子どもに関心を示すようになることによってどう感じたのか、または父親に話さない母親はなぜ父親に話さないのかを調査分析し明らかにし実践する必要がある。

主任指導教員 横川和章
指導教員 横川和章